発行者　若松隆英
総代会
印刷者　奥山印刷

新年を迎えて

住職　**若松隆英**

檀信徒の皆様明けましてお目出とうございます。皆様ご清栄にてお過ごしの事と存じます。

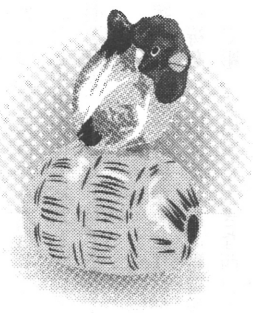
去年は、イラクでは紛争がおさまる気配を見せませんでしたし、何度もの台風が襲来したり、新潟では大きな地震があり大変な一年でした。檀信徒の皆様の中にも台風で被害を受けられた方がおられますが、心よりお見舞を申し上げます。

朝日寺ではそういう中で、皆様方のご協力を得て、多くの方に宝物保存会にご参加いただき、色々な宝物の修繕が出来ました。歴史を有する寺として外観・内実ともに整い、皆様の誇りとなる寺になったのではないでしょうか。皆様のご協力に深湛より感謝申し上げます。

さて、奈良の方で猟奇的な殺人事件が起こりました。小一の女児を誘かいして殺し、その姿を母親に送るという残忍な事件でした。人を殺して喜び、悲しんでいる姿を想像して喜ぶという事でしょうか。でもこんな喜びはすぐにより大きな苦しみになります。我々のまわりでも、人を困らせて喜ぶ事によく出会いますが、本当の喜びは相手に喜んでもらって、それを自分の喜びとする事ではないでしょうか。その意味で新潟の地震で多くの人がボランティアとして活躍している事は大きな救いです。困っている人がいればじっとしておれない。出来ることをしてあげて対価を求めない。無償の行為です。この方がずっと大きな喜びを感じると思います。人にお金や物をあげなくても喜んでもらえる事は色々あります。例えば困っている人がいれば、やさしい言葉を掛け、耳を傾け、なごやかな眼や顔で接し、両腕で相手を包んであげる。足の悪い人がいれば支えてあげ、電車の中でお年寄が立っていれば席をゆずってあげる様な事です。

ささいな事でも、まわりの人に喜んでもらって幸せを感ずる一年としましょう。

合掌



年頭にあたって

副総代長　**松井立男**

檀信徒の皆様明けましてお目出とうございます。

昨年は日本にいくつもの台風が来襲し、新潟では大きな地震が起き、大変な年でした。檀家の皆様の中で高潮等で被害を受けられた方々に心からお見舞を申し上げます。

さて、朝日寺の事ですが、宝物保存会に昨年も二百七十七名の方がご協力を下さいました。誠に有難うございます。この浄財で五月には火災報知器を設置いたしました。これは町内寺院で放火が発生したりした事への対応です。又、今、木製蓮花・灯ろう台・中国故事図・華まん・おかご等の修復を依頼中です。これで朝日寺の宝物の大半が修復完了という事になりますので、修復中のものが全部出来上がり次第、総会をおこない宝物保存会は解散という事にしたいと考えております。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

又、恒例の寺巡りは九月二十四日七十三名の参加を得て、実施いたしました。前年までは五月に実施しておりましたが、寺の諸行事との兼ねあいで、これからは秋に実施する事にいたしますのでご諒承下さい。

それから懸案の新墓地の造成の事ですが、今、関係者の方々の諒解を得、庄田部落との協議という段階です。地元からの人口流出による檀家の減少をいくらかでも、くいとめる事が出来ればと考えております。

創建以来千三百年の歴史を有する朝日寺ですが、社会の変化の激しさは寺にも大きな影響を与えております。檀家の皆様の子々孫々にいたるまで、ゆるぎない菩提寺として存続出来ます様、皆様のご協力を切にお願いいたします。

恵みの喜び

密教婦人会副会長　**西岡仁美**

新しい年を寿ぎ、今年が良い年でありますようお祈り申し上げます。

早いもので密教婦人会のお役をいただいて、四年の月日が立ちました。当初は何もわからなく、仏様に向ってお経を唱える事も気恥ずかしく、何だか場違いな所へ来たような思いでした。年に何回かある婦人会の活動も、行事をこなすという程度で、特別の感慨はありませんでした。二年の任期が終りまして、後任の方へバトンタッチする折、ひょんな勘違いから、もう一期お役を受ける事となってしまいました。アーいやだなあと思う一方、いやこれも仏様の思召し、もっと勉強しなさいという事かも知れないと気持を切り替えて、お役をさせていただく事にしました。

朝日寺での大きな行事であります、花まつりにも三回参加させていただきまして、少し要領がわかって来たように思います。昨年は、浅尾会長の脚本及び演出による石堂丸の寸劇を、上演致しました。当初はいったいどうなる事か、うまくやれるだろうかとても不安でした。一ヶ月二ヶ月と練習を重ねていく内に、皆んな自分の役にすっかりはまり込み、ああしよう、こうしようと気持を込め、最後迄誰欠ける事なく一眼となってやれた事に大きな達成感があり、会場の皆様も石堂丸を見て涙して下さった事は、私達の喜びを二倍にも三倍にもして下さいました。

それから他宗への研修も何度か参加させていただきました。ある浄土真宗のお寺では、若いお母さん達が大勢集い、真剣に仏様にお祈りしている姿を目のあたりにし、驚きと感動でした。浄土真宗は、小さい子供も青年も、若いお母さんも皆仏の心を学び、明日への希望につなげていこうという取り組みをしておられると聞きました。宗派を越えて、共に学び、話し合うという体験は、素晴しいものでした。又この二年間は、特に備前密教婦人会との関りが深く、各寺々の婦人会員さんとの交流、他寺へのお参り、そして役員会の都度一緒に唱える御法楽や宗歌と様々な勉強の機会を与えていただきました。

黒井泰然住職様の記事に、『お役が回ってきたときは、喜んでお受けしましょうヨ。きっと貴女を磨き輝かせてくれる御恵みに出会えると思いますよ』と書かれてありました。この言葉を思うにつけ、今極自然に仏様に向って祈る事ができる自分があるという事に、大きな喜びを感じています。

ところで皆様は、菩提寺の鐘の音を聞かれたことはありますか？　もちろん毎日聞いていますよと、言われる方もあるでしょう。海辺の町に住んでいる私の所にも、風の具合で時折山を越えて届いて来ます。ボーンと、小さな音で響いてくる鐘の音を聞くと、何だかうれしく心を和ませてくれます。

絶ゆるなき鐘の音の
今日もまたかくてぞなりし

という宗歌の一節があります。どうぞ菩提寺の鐘の音がいつまでも絶える事なく私達の心に届きますように、そして今年も皆んな元気で仏の心を学べますように御祈り致したいと思います。

最後に松江市にある明宗寺に勉強に参った折教えていただいた、無財の七施を記して終りにしたいと思います。

1. 眼施（あたたかい眼差し）
2. 和顔悦色施（にこやかな表情）
3. 言辞施（やさしい言葉）
4. 身施（精一杯のおこない）
5. 心施（いつくしみ深いこころ）
6. 床座施（人にあたたかい席を）
7. 房舎施（気持よく迎える心がけ）

御詠歌について

大東　**山下イセ子**

新年あけまして、おめでとうございます。

皆様お揃いでよいお年をお迎えになられた事と思います。

この度は、私のご詠歌についての感想を書かせていただきたいと思います。ご詠歌を始めて早いもので八年になります。初めは鈎杖の扱いも鈴証の扱いも所作も何も解らない私でした。一つ一つ手を取って、先生方に教えて戴き中国ブロック大会には、光明という曲に挑戦しました。何回も何回も習い長い曲を一人で人前で唱えることが出来ました。それも先生方のお陰でした。

昨年主人が急に亡くなり一瞬の出来事に途方にくれ惑い悲しんでいる時、救ってくれたのが、ご詠歌でした。仏前に手を合わせ般若心経を唱えて今教わっている金剛という曲を唱えると心が落着いて力が湧き頑張らなくてはならないと思う心になりました。本当に癒しのご詠歌と思い習って心から良かったと思っています。

そして、長い間夜遅く送り迎えをしてくれた主人に今感謝しています。しっかりと供養をして親子三人力を合わせて頑張っていかなければならないと思っています。

先生方、多くの友人に支えられて、早いもので一年が過ぎ去りました。これからも皆様の御協力と御指導をいただいて、御詠歌道にはげんでいきたいと思います。

今後共よろしくお願いします。ありがとう、ございました。